

2009.1

編集発行人・吉田隆司

毎月1回、1日発行

定価1部100円/1年1000円(送共)

郵便振替 東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3

TEL. 03-3814-3591

FAX. 03-3814-3590

Website...<http://www.rizhong.org/>

E-mail...info@rizhong.org



A先生の新語コーナー



46

Kǎo wǎn zú “考碗族”

合格するまで絶対に諦めない公務員受験者を指す。“碗は飯碗”で、飯の種のこと。ここでは公務員という食いはぐれる心配のない職業を意味する。彼らの間では、中央国家机关は「金の飯の種」、1級行政区クラスは「銀の飯の種」などと呼ばれている。公務員は収入が安定し、福利厚生も充実していることから、この数年、就職志望先として人気が高い。2008年度の国家公務員試験は全国で過去最高の64万人が受験し、その競争倍率は46倍となった。(A)

謹賀新年!

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

2008年は、日中平和友好条約締結30周年にあたり、日中青少年友好交流年としての活動が広く行われました。これに加え、胡錦濤主席の来日、北京オリンピック開催等々で注目を浴びたのはやはり中国であったと思います。

北京オリンピック開幕式当日の夜は日中両国の学生が1階ラウンジの大型テレビを囲み、開幕式の生中継を楽しみました。開幕式をはじめ、北京オリンピックについて様々な評論がだされましたが、大成功のうちに終えたのではないのでしょうか。オリンピックの開催で生まれた副産物が中国の発展にどのように活かされるのかを注視していきます。日中学院の玄関には、オリンピックのマスコット「福娃」に替わり、2010年上海万国博覧会マスコット「海宝」が置かれています。北京とは一味も二味も異なる上海でどんな万博になるのか、これもたのしみです。

先日終えた、日中学院第18回倉石賞(2008年度)授賞式には大勢の方々が出席されました。受賞者の段躍中さんはこれまでの受賞者28個人、団体の中で最初の中国人となりました。在日中国人にとっても、励ましとなるのではないのでしょうか。

2008年は日中学院にとって大変厳しい年でした。数年伸び悩んでいた別科夜間講座に対し、様々な対策を講じてきましたが、成果を上げられないでいます。夜間部の授業開始時刻は18時45分ですが、



受講生はこの時刻までに学院に到着するのがとても大変なようです。それも週に2回、3回となると、授業出席の時間を確保していくのが困難なのです。昼間お勤めの皆さんは、あまりにもいそがしい。「都合のいい時間に、いつでも授業を受けることができる」クラス編成が急務です。

09年4月には、別科生向けの「自習コーナ」が動き出します。このコーナは1階ラウンジ奥に設置されます。ここではパソコンを使って、『学漢語I』講義ビデオを視聴することができます。狙いは、何らかの理由で授業を休んでしまった方が、この講義ビデオを利用することで欠席講義の穴埋めをし、授業に追いついていただくというところにあります。土曜日には、質問をお受けするための講師も待機することを予定しています。

作文の「通信講座」が始まります。仕事の忙しい方、遠くに居住されていて通えない方の要望にこたえようというものです。

このように今年も様々な工夫、提案で頑張ります。

年頭に当たり皆様のご健勝をお祈りするとともに、日中学院への一層のご支援ご指導をお願いいたします。

2009年1月1日

日中学院長 吉田 隆司
教職員一同

2009年の年頭にあたり

日中学院校友会会長 名和 巖郎

あけましておめでとうございます。日中学院校友の皆様にとって2009年がよい年になりますように心からお祈り申し上げます。

校友会は主な年間活動として

- 1 留学生(日本語科学生)との一日交流バスツアー
- 2 (日中学院元講師や卒業生による)講演会
- 3 日中学院文化祭参加
(ピースリーディング・模擬店・写真展)
- 4 日中学院校友会主催中国旅行ー本年3月実施などを行っています。

日本語科生との交流バスツアー



2008年9月27日

2008年度の活動状況について、簡単に報告します。

●日本語科留学生との一日交流バスツアー：2008年9月27日、『夏の世界！江ノ島観光と温泉の旅』（日本語科学生15名校友会11名）を行いました。初めて日語科卒業生が参加されました。（上写真）

●文化祭：『ピースリーディング』（「悪魔の飽食」中国語・日本語による朗読）は、老師、本科・別科学生24名が参加。1階ロビーには731関係資料が特別展示（江尻さん提供）されました。同時に、例年どおり模擬店『おにぎり屋さん』出店と校友会中国旅行の写真展（2008年3月「天津・清東陵・承徳の歴史文化遺産を訪ねる旅」）を行いました。

●講演会：2009年1月下旬、社会事業大学准教授山口幸夫さんの『四川大地震復興 地域社会の再生』を行います。山口さんは建築都市計画の専門家、社会福祉に造詣も深く、現在日中専門家による「中国西部大地震住宅生活支援日中交流会」の中心メンバーとして現在活躍中です。

●第14回中国旅行：今回は「四川綿竹・都江堰・臥安・峨眉山を訪ねる旅」＝「万众一心 众志成城

城 抗震求災」にささやかな支援を3月下旬（2009.3.24～3.29）、5泊6日の日程で行います。今回の旅行は、成都を拠点として、大地震後の被災地北川を訪問（予定）すると同時に、観光を再開した都江堰や青城山を見学。さらに峨眉山に登り、臥安ではパンダ研究センターを訪れます。最終日にはフリータイムを予定しております。詳細は別紙のとおり、多くの方々の参加をお待ちしております。

日中学院校友会は1986年に誕生しました。校友会は、会員相互の親睦交流を深めるとともに、日中学院を賛助し、日中友好の架け橋として、中国語及び中国文化等の研究・普及活動の発展に寄与することを目的とするものです。校友会は、この会の趣旨に賛同し加入した現・旧教職員及び学生により組織運営されています。学院生であれば、本科別科を問わず、誰でも加入できます。多くの校友のみなさんの参加を歓迎いたします。

役員一同、今年も楽しく充実した活動をめざし頑張ります。校友のみなさんと日常的な交流の場をひとまわり拡げてみたいと考えています。校友のみなさんのご支援をお願いいたします。

2009年元旦

私の主張：

「日中友好のためでなくても、まず中国語をマスターしよう」

関西学院大学法学部客員教授
沈海涛

先日、久しぶりに東京の文京区にある日中友好会館を訪れた。私の新潟大学院生時代の友達である段躍中さんが第18回日中学院「倉石賞」に選ばれ、その授賞式に出席するためだった。段さんは17年間一貫して、日中文化交流や相互理解の促進のために研究、出版、中国語や日本語作文コンクール、日曜中国語サークルなどの活動を通じて力を発揮していたことが高く評価された。

それに、日中学院といえば、日本だけでなく中国でも有名な中国語の専門教育機関であり、日中友好のシンボルとも言える日中友好会館の一部でもある。学院のスローガンである「学好中国話、為日中友好起桥梁作用」(中国語を学んで日中友好の架け橋となろう)が象徴するように、創立されて数十年間にわたり日中友好のためにたくさんの人材を育て、日中友好事業に対して大いに貢献していることでよく知られている。

今、日中両国は戦略的互惠関係を築こうと協力しあう時期に入ろうとしている。中国に対する関心が高まる中、日中学院で中国語を勉強しようとする人が年々増えることは喜ばしいことだ。

日中友好の架け橋となるために中国語を勉強しようということに大いに賛成する。それはわれわれ中国人が日本を知り、日中友好のために一生懸命日本語を勉強することと同じであるからだ。

しかし、少し角度を変えて考えれば、ちょっと気になることがある。日中友好のために中国語を学ぼうと一点だけ強調しすぎると、無意識的に多くの中国語を勉強しようとする人々を二つのグループに分けてしまうことになる。つまり、対中友好かそうでないかという二分化の発

想で、より多くの自分の意思表示ははっきりしたくない人々の気持ちを無視してしまうような結果が生じる可能性があるのではないか。そうだとすれば、一部の人々が日中学院に入りづらくなることも想像できるだろう。

その国の言葉を勉強するきっかけが何かと言えば、まず、その国のことを知りたい、少しでも興味をもったということだろう。当然、日中友好を提唱し、維持してゆくことが日中両国民にとって最大のメリットがあり、重要である。数千年間積み上げてきた日中友好を維持するためにはより多くの人がお互いに言葉を勉強し、相手のことを多く知る必要があるだろう。反面、たとえ中国を叱りたい、批判しようとするためにも、中国語ができれば、中国の事情をより詳しく知ることもできるだろう。

目下の日本の社会事情から見ると、中国との友好関係を維持しようとする人とそうしたくない人、またははっきり意思表示しない人とさまざまいるだろう。

別に日中友好のために中国語を勉強しようとするわけでもない、ただ中国旅行のため、自分の就職のため、会社の中国事業のために勉強する人もいるし、中国に対して批判的立場をとる人も中国語で中国のことを語っているのは事実であり、実際には中国に対してそんな友好的な気持ちを持っていない方も、ただ商売のために中国語を勉強しており、かなり流暢な中国語を話せる人もたくさんいる。

しかし、言葉の勉強から始まり、その国の自然、社会そして人々の日常生活などを知ることによって、次第にその国に対するイメージができて始め、または旧来の印象が変わることも考えられる。

現実、中国に対してある程度の興味を持って

はいるが、日中友好事業に対する理解はまだ不十分な人、またはマスコミなどの客観性の欠けた記事により誤解をもつ人に対し、説得する前に、まず中国語の勉強を勧め、中国のことを自分の語学力で把握することの大切さを教えることが急務だと思われる。

言い換えれば、多くの実務家、対中投資や貿易を進める人々は、必ずしも日中友好を意識しながら中国語を勉強してはいない。ただ相手に自分の意思を伝達し、理解してもらうためには通訳に頼るより自分の中国語で説明することが、もっとも効率的で最善の手段だと知っているからだ。

したがって、専門的中国語の教育施設として単なる生徒募集の見地から見ても、一部の日中友好の主張に賛同か否かをまだ決めていない人々を対象外にすることは得策でないのは明白である。

発想を変えれば、どんなチェンジも可能とする。

相手に自分の意思をわかってもらいたいならば、相手のことをもっと知りたいならば、まず相手の言葉を勉強することが一番の方法だと大いに訴えたほうが良い。日中友好のために中国

語を勉強しようと訴えると同時に、日中友好のためでなくても、「中国をもっと批判したり、叱かったりしたいなら、また、少しでも中国に興味がありさえすれば、まず中国語をマスターしよう」と大いに宣伝するのは如何であろうか。

中国語の勉強によって、自ら中国の事情を知ることができるようになれば、先入観を捨て、中国に対する客観的分析能力をもち、自分なりの判断ができる「知中派」を養成することができるはずである。当然ながら、こういうことを通じて、日中友好事業の基盤がますます拡大してゆくことも想像できるだろう。

グローバル時代に民間交流、草の根交流を促進するためには言葉が重要な道具（手段）であることは言うまでもない。日中両国の相互理解を促進するために、まず相手のことを知るのが重要である。その重要な手段として、語学力の養成が不可欠だ。より多くの人々に中国語の勉強をしてもらうこと自体、日中友好事業の発展に役立つ意味がある。

その意味で、私は日本人の皆さんに対して日中友好のためでなくても中国語を勉強しようと言いたいのだ。

■寄贈

下記の方々より図書室に寄贈がありました。ありがとうございます。

◎胡興智様（吹込担当者）より

『中国社会事情を知って鍛える中級中国語』

◎黄綿史様より

《梁山泊與祝英台》(VCD)

《七千女》(VCD)

《鳳還巢》(VCD)

◎佐藤公彦様（著者）より

『上海版歴史教科書の「扼殺」』

《義和団の起源及其運動》

●図書室休館期間

2008年12月23日～2009年1月8日

新年度は9日より再開いたします。

■1月の日中学院

- ・ 6日（火）…仕事始め
学院開門別科公開講座（入門・基礎）
- ・ 9日（金）…別科232期 授業開始
- ・ 10日（土）…本科研究科 授業開始
- ・ 12日（月）…成人の日（全館休館）
- ・ 13日（火）…本科（1.2年）日本語科 授業開始
- ・ 15日（木）…本科追試（～21日まで）
- ・ 16日（金）…日本語科2年 国会見学
本科第二次募集締切
- ・ 18日（日）…本科第二次入学試験日
- ・ 24日（土）…本科 公開講座
- ・ 26日（月）…日本語科 春節パーティ
- ・ 27日（火）…本科日本語科合同弁論大会
- ・ 29日（木）…本科 選択授業聴講日

■耳目

校友会よりお知らせ：講演会『四川大地震復興 地域社会の再生』1月31日開催、旅行『四川綿竹・都江堰・臥安・峨眉山を訪ねる旅』3月24日から29日（予定）です。詳しくは同封のチラシをご覧ください。ご参加お待ち

しております。

■編集後記 別科濱崎同学より風邪の予防のため、と手の消毒薬をご寄付いただきました。洗面所と給湯室に設置してありますのでご自由にお使いください。今年も皆様にとって良い年になりますように。(Y)